令和８年度　京都府立大学　一般選抜試験（後期日程）
入学者選抜学力検査　「歴史」（歴史学科）

〇出題意図

1

戦国時代の分権的な権力構造から近世の集権的な権力構造へ転換していく過程を論述することで、中世から近世への転換の特徴について理解できるかを問う問題である。論述にあたって手がかりとなる語句を提示して、①戦国時代の指出検地から太閤検地を経て武家政権が生産力を直接把握するようになること、②太閤検地を経て貫高制から石高制へと転換すること、③国替（転封）や刀狩令などを経て兵農分離が確立すること、④一国一城令などを経て江戸幕府による大名統制が確立すること、という戦国から近世への転換の特徴が理解できるかを問うた。日本近世の特徴について、権力構造の面から正確に理解し、なおかつ論理的に説明できているかを中心に評価した。

2

第一次世界大戦後から第二次世界大戦後に至る、日本と南洋諸島との関係について問う問題である。①ドイツ領であった南洋諸島が、第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約により日本の委任統治領となったこと、②太平洋戦争の開戦後、日本は東南アジアから南太平洋にかけての広大な地域を軍政下に置き、日本本土および植民地、満州などの「外地」を含めた領域を「大東亜共栄圏」とするスローガンのもと、戦争を進めていったこと、③1942 年の中部太平洋ミッドウェー島沖での海戦による敗北をきっかけに戦況は大きく転換し、日本は徐々に防衛ラインを後退させ（具体的な戦闘名は明記できていなくても可）、1944 年のマリアナ諸島サイパン島の陥落により絶対国防圏の一角が崩壊したこと、④ポツダム宣言の受諾により降伏した日本は戦後アメリカ軍の直接軍政下に置かれ、台湾は中国に返還、沖縄・奄美はアメリカ統治下に、日本の主権は本州、北海道、四国、九州の４つの島と諸小島の範囲に限定されたことを、時系列に沿って論理的に構成できているかを評価した。

3

前２世紀から後７世紀までの朝鮮半島を取り巻く政治的動向について通時的に把握できているかを問う問題である。①前２世紀末に前漢の武帝によって衛氏朝鮮が滅ぼされ、楽浪郡が設置されたこと、②後４世紀初めに楽浪郡が衰退すると高句麗、新羅、百済が並び立つ三国時代へと突入すること、③後６世紀末以降、隋・唐によって中国が統一されると、たびたび介入を受けながらも、後７世紀後半に新羅によって朝鮮半島の大部分が統一されること、を正確に理解できているかどうかを採点基準とした。

4

十字軍運動の歴史的な経緯について、基本的な流れと理解を問う問題である。十字軍運動は本来の宗教的側面のみならず、政治的、経済的、文化的など複数の側面で、中世ヨーロッパに深い影響を与えた出来事だった。使用語句は基本的なものばかりであるが、それに関連する語句を的確に持ち出して、使用できるかを採点基準とした。また、十字軍の経過を詳細に追いすぎると、論述の分量が膨大になり、高校教科書の知識も大きく超えてしまう。いかに要点を押さえて、コンパクトに叙述できているか否かも、あわせて評価した。